

令和6年度岐阜県スポーツ推進審議会／スポーツ推進県民会議議事要旨

- 1 日 時 令和6年11月27日（火）13：30～16：00
- 2 会 場 岐阜県庁20F 2002会議室
- 3 出席委員 大友克之会長、
浦崎邦子委員、岡本敏美委員、小森崇稔委員、杉山多美子委員、
堤卓雄委員、猫田孝委員、伏谷美香委員、増田和伯委員、三井栄委員、
矢島薫委員、吉富桂子委員、渡邊丈展委員、上田和伸委員、
- 4 会議の形態 非公開
- 5 挨拶 市橋貴仁（岐阜県清流の国推進部部長）
大友克之（岐阜県スポーツ推進審議会会長／スポーツ推進県民会議座長）
- 6 議 題
「第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画」に基づく主な施策の実施状況
- 7 議事要旨
（事務局）
 - ・本会の成立について、岐阜県スポーツ推進審議会条例第5条第2項に基づき、半数以上の委員の出席があり成立
 - ・令和6年度岐阜県スポーツ推進審議会・県民会議新任委員の紹介
 - ・岐阜県スポーツ推進審議会条例第4条第1項に基づく、会長及び副会長の選出
大友委員を会長、大城委員を副会長に選任
 - ・岐阜県スポーツ推進県民会議設置要綱第3条第3項に基づく、座長の選出
大友委員を座長に選任
 - ・議事録署名委員の指名

(1) 「第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画」に基づく主な施策の実施状況
スポーツ推進計画の5つの柱に沿って、各所属が取り組む令和6年度のスポーツ推進施策の実績について説明

I 生涯にわたる健康と生きがいづくりのスポーツ推進

説明者：地域スポーツ課長、ねんりんピック推進事務局次長、
体育健康課長

II 世界や全国を目指すアスリートの競技力向上

説明者：競技スポーツ課長

III 障がい者の活躍を広げるパラスポーツの推進

説明者：地域スポーツ課長、競技スポーツ課長、障害福祉課長

IV 地域資源を活かしたスポーツによるまちづくり

説明者：地域スポーツ課長

V 誰もが楽しめるスポーツ環境の整備

説明者：体育健康課長、地域スポーツ課長

8 各委員からのご提言

(渡邊委員)

- ・「ミナモダンス」や「ミナモ体操」は、清流国体のレガシーとして、先日閉幕した国民文化祭の総合開閉会式などでも披露されており、この先も継続していくことが必要。
- ・県の様々なイベントで、スポーツレクリエーションの力で盛り上げていくということも可能であり、ミナレク運動を含めて、いろんな施策を一体化し連動させることで、スポーツ実施率も上がってくるのではないかと。

(杉山委員)

- ・現在の保育の現場では、スポーツをする子ども、全くしない子どもの二極化が顕著となっている。
- ・このような中で、幼児プログラムを実践した子どもたちは、走る、投げるといった体力的な記録が他園と比べて身につけている。
- ・また、保育の現場では、運動遊びの推進プログラムにより、ルールを守りながら遊び、その楽しさに気づくことによって、社会生活が身につけていくと感じている。
- ・このように子供たちの大きな成長に繋がっていくことから、事業の継続をお願いする。

(矢島委員)

- ・「ねんりんピック岐阜2025」が来年の10月に開催され、大会期間中は、県内各所でレクリエーションイベントにより盛り上がることとなるが、このレクリエーション活動を一過性のものとせず、継続的に広がっていく支援や活動のバックアップをお願いしたい。

- ・また、指導者のバンク登録者数は、研修会等を通じて着実に増えており、スポーツが地域に根づいていくよう、引き続き支援をお願いする。

(増田委員)

- ・今年のパリオリンピックでの本県ゆかりの選手の活躍や、国民スポーツ大会での好成績は、オール岐阜での取り組みの成果であるといえるのではないか。
- ・県からは各競技の課題分析等できめ細かく支援いただいているが、こういったオール岐阜での取り組みにより高い競技力が維持されているため、引き続きの支援をお願いする。
- ・また、県有施設の整備について、岐阜メモリアルセンターの建設から40年近く経過しているため、社会のニーズに合わせた、全面リニューアルを含めた議論を進めていくためにも、次期スポーツ推進計画の中で検討いただきたい。

(吉富委員)

- ・アスリートに関して、ケアの部分がネックに感じている。
- ・アスリートに怪我は付き物だが、スポーツに特化した病院指定があると良い。
- ・特に、地元出身ではない選手が岐阜で活動をする際に、怪我の部位に応じて、対応可能な病院の一覧があると選手は安心して活動できる。
- ・また、女性アスリート特有の病気についても、対応可能な病院等指定があると良い。

(上田委員)

- ・今年行われた全国高等学校総合体育大会、及び「SAGA2024 国民スポーツ大会」では、少年種別の活躍が目立ち、ジュニア世代からの一貫した強化の成果が表れている。
- ・一方、課題として、指導者の高齢化がある。今後は、選手の育成だけでなく、指導者の育成についても、今後よく進めていただきたい。
- ・また、環境整備において、近年の酷暑が問題となる中、クーラーのない体育館での練習は、効率の良い練習ができていないのか疑問である。
- ・選手強化の面から、学校体育館へのクーラー設置を進めていただきたい。
- ・県外からの選手獲得という観点からは、魅力ある施設、優秀な指導者が必要となってくる。以上の点を、今後の大きな課題として取り組んでもらいたい。

(浦崎委員)

- ・パラスポーツの水泳では、現在、インクルージョン・インクルーシブ大会という一般競技にパラの選手が参加できる方法を進めている。
- ・競技によっては難しい部分もあるかと思うが、可能なところから進めていければ、競技力の向上にも結びついてくるのではないか。

- ・今年も金藤杯を開催していただき、実際にオリンピックである金藤選手と触れ合う機会もあり、参加した子供たちは大変喜んでいました。このような大会にも、パラ選手が参加できるような仕組みを取り入れていただきたい。
- ・また、スイミングプラザの屋外プールは夏場、プールサイドの温度が50度近くに上がり、選手だけではなく、競技役員や指導者にとっても大きな負担となっている。
- ・東海4県で持ち回りで開催している、高校総体についても、屋外プールを避けるため、岐阜県開催であっても、運営を岐阜県で行い、場所は他県の環境の良いところで開催しようという意見も出てきている。
- ・10年、20年後を見据え、屋内プールへの改修等進めていただきたい。

(岡本委員)

- ・現在、各圏域でパラスポーツフェスタを開催し、パラスポーツを通じての交流を図っているが、このような取り組みを今後、どのように繋いでいくかが、これからの課題と感じている。
- ・パラスポーツができる環境の充実について、より多くの指導者の方に、研修会に参加いただき、理解を深めていただければ、裾野が広がっていくのではないかと。
- ・また、今年行われたパリ2024パラリンピックに県ゆかりの選手が3名出場したが、選手たちはすでに、2026年のアジアパラ、2028年のパラリンピックに向けて、動いていると思う。引き続き支援いただきたい。

(堤委員)

- ・大規模なイベントへの支援が中心となっているように受けられる。
- ・昨年行われた、瑞穂市の市政20周年の記念事業の一つとして、モルックの市民大会を実施したところ、定員を超える多くの方に応募いただき、コミュニケーションをとりながらの健康維持や、絆づくりに取り組んでいただけた。
- ・こういった地域の小規模なイベントにも目を向け、支援していくことで、コミュニケーションの深化が図られ、地域の活性化、スポーツ実施率の上昇につながっていくのではないかと。
- ・また、岐阜県のスポーツ推進委員は年々減少しており、現在85%の充足率である。また高齢化が顕著である。全国的にも同様の傾向があり、難しい問題ではあるが、こちらについても、対策を検討いただきたい。

(伏谷委員)

- ・県大会等の大きな大会に出場する際、遠隔地から参加する場合、バスによる遠征を行う必要があり、バスの借上げに係る費用は運転手の人件費等も含め、年々増加しており、これが大きな負担となっている。

- ・現状、市町村によっては、遠征費に係る費用の支援制度があるところもあるが、県の競技力向上という観点から、県大会等に出場する際に、県で一括した支援ができないか。
- ・高原高地トレーニングエリアについて、平野部と比較し、夏場であっても涼しく、練習がしやすい。こういったメリットを生かし、様々なクラブに利用いただけるような取り組みを進めていけると良い。
- ・部活動の地域移行に伴い、クラブでの活動が中心となっていく中、強化優先となり、暴言、暴力等のハラスメントが増えていくのではないかと危惧している。指導者研修等の場でよくケアしていただきたいが、部活動の地域移行に伴うクラブ化については、慎重に進めていく必要がある。

(三井委員)

- ・スポーツ環境の整備については、K P I がトイレの洋式化、L E D 化という小規模なところに収まっており、利便性向上につながる、別の指標が必要ではないか。これによりサービス向上が見える化していくため、検討いただきたい。
- ・また、伏谷委員の発言にもあった、ハラスメント根絶に関する問題について、実際に研修を受けた方の意識の変化を定量的に計測する必要があるのではないか。
- ・受講者数だけでなく、研修による効果を図っていくことも重要であるため、今後検討いただきたい。

(小森委員)

- ・県有施設の整備については、どうしても大きな費用が必要となる。そのため、色々要望があると思うが、全てやることは難しい。
- ・県有施設の多くは指定管理により、民間が関わっていると思うが、利便性の向上に係る部分について、官民共同で進めていくこともできるのではないか。
- ・また、部活動の地域移行に伴う問題として、指導者報酬の問題がある。いつまでも、ボランティアで出来るものではなく、行政による支援という話もあるが、受益者負担も含め、進めていかなければならない。
- ・指導者の障がい者への理解促進に係る研修について、非常に良い取り組みだと思うが、研修をやっていることをもっと広く周知したほうが良い。また、研修によるゴールが見えにくいため、ステップアップ方式の研修にブラッシュアップするなど、検討いただきたい。

(猫田委員)

- ・上田委員の発言にあったように、県外からの選手獲得について、公立の学校は、私立の学校と比べ困難である。教育委員会と連携して何かできるのではないか。

- ・岐阜県議会議員で構成されるスポーツ議員連盟の活動の一環として、来年度の予算編成に係る要望書を提出する予定である。
- ・今後、県全体の予算は大変厳しくなっていくが、皆さんの要望に応えられるよう尽力する。